陳情第１２３号	受理年月日	令和８年９月１日
付託委員会	都市ブランド教育委員会	
件　　名	北九州市におけるオーガニック給食導入に関する陳情について	

要　旨

私たちは、約10年前から農業生産者の方々とともに、黒崎オーガニック野菜マルシェを毎月開催している。10年前はお客様はわずかだったが、現在はお客様も大変増えてにぎわっている。

オーガニック野菜マルシェを主催している中で、北九州市の子供たちの学校給食も可能な限りオーガニック給食へ少しずつシフトできたらと希望を持ち、有機野菜農家のリアルな声も聞きながら活動している。

数年前に、昭和館にてオオタヴィン監督による「夢みる給食」というドキュメンタリー映画を見て、そして登壇させていただき、日本国内でもオーガニック給食が実現しているという現状を知り、さらに希望を持った。北九州市政に関わる皆様には、「夢みる給食」を一度見ていただきたいと強く思っている。この上映を機に、オーガニック給食推進の署名活動をスタートした。多くの方々の協力により、署名が2,000名ほど集まった。多くの方々の声を届け、北九州市において、是非オーガニック給食の実現を図るために、北九州市議会への陳情を行うこととした。

子供たちの体づくりに欠かせない学校給食を、可能な限り、少しずつでも、地域の農家と連携しながらより安心安全な無農薬・無化学肥料の食材を使用した給食へ移行していただくことを願う。

現在の北九州市における学校給食はＡ、Ｂ地区で統一されており、全てをオーガニック給食に移行していくのは、難しいこととは承知はしている。その中でも、将来的に、より素材における質が高く、健康的な地産地消の材料を使用した給食へ向かうために、下記のとおり陳情する。

陳情事項

１　まずは米、野菜など、何か一つの食材からで構わないので、毎週○○曜日はオーガニック給食など、条件の整う学校からモデル校で実施し、オーガニック給食の第一歩を踏み出すこと。

（続　く）

２　オーガニック給食を実施するにも、それを作っていただく農業全般、有機農業の方々の支援は欠かせない。市や市議会による、実際有機農業を長年されている農家の方へのヒアリングや聞き取り、現場への見学を行っていただくこと。

３　今、学校では子供たちが集めた牛乳パックで、自分たちが使うトイレットペーパーを「北九州紙えこっパー」ブランドで販売・使用している。その給食版として、子供たちが育てた野菜などを、ブランド化して給食に使う、又は、ブランド化して販売すること。

４　子供たちの農業体験、農家とのコミュニティ（種まきや収穫、田植え）へ参加して、収穫した食材を子供たちの給食へ活用するなど、教育と農業の連携で、子供たちに食や農業の大切さを学ぶ機会を確保すること。

私たちの心と体は、そばにある環境で作られ、その環境は子供たちの体づくりに最重要なものである。学校給食は、子供たちの心身が最も成長する時期において、１日３食のうちの１食を担う最も欠かせないものである。未来を担う子供たちの健やかな成長と免疫力向上は、北九州市の未来へもつながると考える。

将来的なオーガニック給食実現に向けては、生産者や教育機関、流通などを含め、多くの方々の連携・協力が必要になると考える。また、農林水産省が進める、わが国の持続可能な食料システム戦略に向けて、2021年５月に「みどりの食料システム戦略」が策定され、全国的にオーガニック給食導入の流れが広がっている。

子供たちの食を取り巻く状況と共に、今、求められている持続可能な農業・環境問題も大きく関与するものと考えている。北九州市の食・農業・環境問題を、更に発展させていく大きな礎になるものと考えている。

子供たちの「夢見る給食」のために、議員の皆様のお力添えをいただきたい。